

18歳以下の5万円分クーポン、デジタルと紙の2通りで

12/5(日) 16:00 配信 3796



産経新聞



政府が追加経済対策の目玉として盛り込んだ18歳以下への10万円相当の給付のうち、来春支給する5万円分のクーポンの配り方が5日、分かった。自治体が開設した通信販売専用のサイトで利用できるポイントを付与する形式を検討しているほか、過去の給付と同様に紙のクーポン券も用意。実務を担う市区町村が域内でどちらを使うか選択できる仕組みになる見通しだ。

【比較でみる】給付金が支給される世帯とされない世帯

5万円分のクーポンは、来年夏の参院選も念頭に、その直前となる来春の入学シーズンや新学期に合わせて、対象世帯に郵送するよう準備を進めている。用途はベビー用品や育児サービスなど子育て目的に限定され、有効期限も設定して消費喚起につなげたい考え。

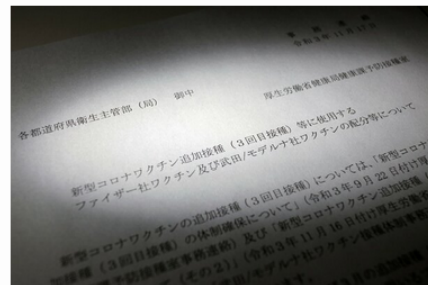
通販サイトを利用する場合、ポイントを付与したIDカードが配布され、インターネット上で商品やサービスを購入できる。紙のクーポンの場合は市区町村の公募に応じた小売店で商品やサービスを購入できる。

一方、先に配る現金5万円は、児童手当の仕組みを活用して親の銀行口座に直接振り込める0～15歳には年内から支給する。申請が必要な16～18歳の高校生世代に対しては、親の年収確認などを行った後、年明け以降順次支給する計画だ。

政府は10万円給付の対象を、18歳以下の約1800万人と想定。事業費は5万円の現金給付とクーポン配布がそれぞれ9113億円だが、事務費は現金給付が280億円なのに比べて、仕組みが複雑なクーポン配布は967億円に上る。(永田岳彦)

ワクチン3回目「交差接種」増の見通し、自治体困惑 「ミス起きないか」

2021年11月26日 6:00



米ファイザー製とともに、米モデルナ製のワクチンを配分することを伝える厚生労働省の文書。17日に各都道府県に通知された

新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を控える京都・滋賀の自治体から、困惑の声が上がっている。高齢者への接種が来年から本格化する見通しだが、国が自治体に配るワクチンの4割超が米モデルナ製となるためだ。多くの自治体は1、2回目接種を米ファイザー製で進めており、「交差接種」の安全性を示す情報の少なさや、2種類を使用することでミスが起きる可能性を懸念している。

■多くの自治体は1、2回目「ファイザー製」も…

「現場の都合を無視したやり方だ」。滋賀県近江八幡市の担当者は憤る。同市は来年2～3月に約2万2千人が3回目接種の対象になるが、1、2回目はほぼ全員がファイザー製を接種していた。国のワクチン配布計画に沿えば、3回目モデルナ製になる人が出ることになる。「交差接種の有効性や副反応に関する情報提供が国から全くない。市民の不安に対し対処のしようがない」と話す。

県によると、2～3月に配分されるワクチンがファイザー製55%、モデルナ製45%になると国から通知があったのは11月17日。翌18日には県内19市町に知らせたが、今年12月～来年1月の配布分は全数がファイザー製だったため、モデルナ製配分の通知は県も市町も「寝耳に水」だった。

滋賀県内の市町の担当者が危ぶむのは、交差接種への不安などから、市民の接種希望がファイザー製に偏りかねないことだ。

彦根市の担当者は「1、2回目と同じファイザー製を打ちたいのに打てない、との市民の苦情は出てくる」と予想し、「希望のワクチンがないとの理由で、予約そのものが埋まらない恐れがある」と気をもむ。大津市の担当者も「住民の不安を取り除くよう、国が積極的にPRしてほしい」と望む。

問題は他にもある。ファイザー製は生理食塩水での希釈が必要だが、モデルナ製は不要で注射量も違うなど、取り扱いに差がある。

高島市は2月上旬にも個別接種を始める方針で、現在、地域の医院に接種業務に携われるか意向を確認している。ただ、1、2回目と違うモデルナ製を扱うとなれば、「担い手となってもらえるのか」と担当者は不安を隠さない。守山市は「同じ会場で2種類扱うとミス招く」としてモデルナ製は集団接種で、ファイザー製は医療機関の個別接種で扱う予定で、長浜市も同様の対応を検討中だ。

1、2回目を集団接種のみで進めた豊郷町の担当者は「人員や予算面で会場を増やすことはできず、日ごとに打ち分けるしかないが、予約が偏る恐れもあり妙案はない」と頭を悩ませる。

■「国は適切な情報発信を」

京都府に12月～来年3月分として配分される新型コロナウイルスワクチンも、米モデルナ製が42%を占める。京都市の担当者は「モデルナ製も米ファイザー製も性能は同じで、供給も十分にある」として、接種対象の高齢者らに冷静な対応を求める。

医療機関の個別接種でもモデルナ製を使うことが可能になる見通しだが、市によると、医療機関の関係者からは、複数のワクチンを扱うことについて「ミスが起きるかもしれない」と心配する声が上がっているという。

京都府の西脇隆俊知事は11月25日の記者会見で、モデルナ製の方が副反応が強いという認識が府民の間で広まっているとし、「ファイザー製との交互（交差）接種の安全性も含めて、国からも適切な情報発信を強化してほしい」と求めた。